

「自画像」 昭和27年（セルフポートレート）

田中一郎（大正3年、高山市生まれ）は昭和10年、東京武蔵野写真学校で学び、柳島芳三写真場、工藤写真研究所での写真技術の習得を経て、昭和12年に帰郷。高山市で「田中スタジオ」を開業しました。その後、昭和22年からは月例写真の応募を続け、昭和52年には二科会会員に推挙されています。

日本を代表する写真家、土門拳は早くから田中一郎の写真に注目、フォトアート（昭和32年）では、「…それにしても田中君の「高山の人」はうまい写真である。非常にみずみずしい魅力をたたえている…、あくまでも人間を見、人間をとらえようとしているところに、ほかのありふれたスナップとは違った内容とか深みを添える…」と評しています。

本展では高山や古川の街の、日常を生きる人々の姿、暮らし、街並みを愛情あるまなざしで見、誠実な人間観のもと白黒の造形的に美しい写真を撮り続けてきた、田中一郎の仕事を広く紹介します。

### ◆トークイベント 「田中一郎の写真の魅力」

飛騨地域で活躍する若い世代が、田中一郎の写真の魅力について、語り合います。朝倉圭一氏（やわい屋） 浅野翼氏（建築士）  
期日：11月3日（日・祝）午後2時～ 場所：多目的室  
参加無料 予約不要

### ◆柳本尚規氏による ギャラリートーク

田中一郎の5,000枚以上にわたる写真の画像・データを整理してきた柳本尚規氏（東京造形大学名誉教授）にお話しいただきます。  
期日：11月24日（日）午前10時～ 及び 午後2時～  
場所：第一展示室 参加無料（※入館料必要） 予約不要

### ◆私の選んだ、「田中一郎の写真の、この1枚」

来館者の方々が選んだ「田中一郎の写真の、この1枚」を、会期中、多目的室で紹介いたします。田中一郎の写真の魅力を、多くの人で味わい、分かち合しましょう。 期日：展覧会期中 場所：多目的室

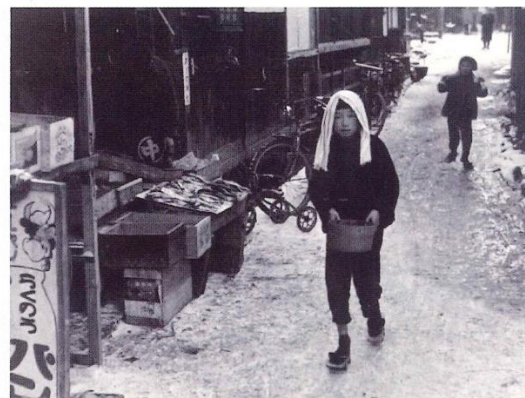
「田中君は、低音の写真家である。低音は、声高に語る人より、かえって聞くひとを引きつけるものである。」（土門拳）

## 田中一郎 写真展

日常をみるまなざし 街・子ども・暮らし



「no title」 (昭和30年以降)



「銭湯 風呂屋」 (昭和30年頃)



「牛ぞり」 (昭和25年頃)



「古川町2-2」 (昭和31年)

## 飛騨市美術館

〒509-4221 岐阜県飛騨市古川町若宮 2-1-58  
TEL 0577-73-3288 FAX 0577-73-5003

### ■アクセス

- ・JRにて、高山本線「飛騨古川駅」下車、跨線橋を渡り徒歩5分。
- ・富山よりJR高山本線・特急で約1時間15分。
- ・名古屋よりJR高山本線・特急で約3時間。
- ・お車にてお越しの場合は、市営若宮駐車場をご利用ください。
- ・東海北陸自動車道、清見ICより卯の花街道を通り約30分。



会期中、工事のため駐車場が利用できないことがあります。